

HEADLINE



ラ

イオンズクエスト・プログラムの説明員講習会が2月3日、東京・高輪のジュセイ品川貸会議室で開催され、北海道、福

島、大阪、熊本から4人の会員が受講した。説明員制度は2007年に、LCIFから同プログラムの普及と版權管理を委託されている青少年育成支援フォーラム(JIYD)により設立された。セミナー(体験会)などでプログラムの概要を説明し、模擬授業を行う人材を養成するもので、これまでに全国で72人のライオンズ・メンバーが説明員の資格を得ている。活動のやり方は各説明員に任されており、他クラブの例会を訪問して理解促進を図ったり、薬物乱用防止教室と絡めたりと、各地の事情や説明員の持ち味を生かして活動している。

ライオンズクエスト・プログラムは現在、全国の30地区がLCIF四大交付金を活用して普及に取り組んでいる。7月の新年度からは更に1地区が加わる予定で、地区の資金でプログラムを推進している332・C地区と337・E地区を合わせると、35準地区中33の地区がライオンズクエストを導入していることになる。そんな中、昨年度は全国100カ所(公募型56、校内型44)で、LCIF認定講師によるワークショップ(教師用トレーニング)が開催された。また、既にプログラムを導入している学校等の教師を対象としたフォローアップ・ワークショップも26回を数えている。2000年に日本で初めて330複合地区におけるパイロット事業が始まって今年で15年。この間に開催されたワークショップは延べ791回、受講者は1万9814人に上る。全国でプログラムの普及活動が進む中、今後ますます説明員の需要が高まりそうだ。